

第7回 学校環境衛生研究協議会報告

千葉県学校薬剤師会
副会長 大塚昌孝

平成29年7月9日(日)第7回学校環境衛生研究協議会がホテルスプリングス幕張にて行われました。この大会の趣旨は学校環境衛生について研究協議を行い、もって健康教育の充実を図るというもので、学校薬剤師のための研修会です。全国各地よりおよそ305名(県外175名・県内130名)の先生方が参加し、10:00~16:00までと長丁場で行われました。

午前中は特別講演として「学校環境衛生検査は誰のため?学校環境衛生基準は何のため?」と題して文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課健康教育調査官 小出彰宏先生よりご講演頂きました。法令の種類における位置づけや国・地方公共団体の責務、学校設置者の責務、学校の責務について概略を説明して頂き、三者の役割が分かりました。学校薬剤師の責務についてどの様なことを望まれているのか再確認しました。

平成26年度の全国学校保健調査結果より学校薬剤師の出校日数が0日1.6%、1~3日21.4%と少ない地域があることも問題となっています。環境衛生検査についても、空気環境の検査においてエアコン等を使用しているのに浮遊粉塵や気流の検査を行っていない場合が60%以上にのぼり、教室において燃焼器具を使用しているのに一酸化炭素の検査を行っていないところが57.2%、二酸化窒素の検査を行っていないところが68.3%となっています。ダニ又はダニアレルゲンの検査においても57.1%の学校では実施されていましたが、まだまだ低い実施率と言えます。また日常点検記録が残っていない割合は83.9%と非常に高い割合で、もっと日常点検を積極的に行っていき、その結果を活用し、より良い学習環境にしていきましょう。「答えは現場にある」という先生の問いかけが印象に残りました。学校では子ども達が1日の大半を過ごします。安心安全な教育環境を守るには学校設置者・学校・学校薬剤師・養護教諭等教職員それぞれの立場でやるべきことをやる必要があるということを確認しました。

午後の講演では「地域貢献としての学校薬剤師活動」と題して東京薬科大学薬学部社会薬学研究室教授 北垣邦彦先生にご講演頂き、地域社会(学校・児童生徒等)と薬局・薬剤師がWinWinの関係になるためにもっと学校薬剤師について知ってもらう必要があり、環境衛生検査の他に学校薬剤師の活躍の場として薬物乱用防止教育や医薬品の教育についてしっかり関わってもらいたい。子ども達が医薬品に関する適切な知識を持つことは重要な課題であり、学校薬剤師がこのような点について更なる貢献をすることが期待されていると強調されていました。2020年東京オリンピックの機運も高まりドーピングに関することも高い関心になるので、スポーツファーマシストの取得など地域に根差した薬局・薬剤師を目指し頑張りたいと話されていました。

引き続き講義が3つ、短い休憩をはさみつつ行われました。「学校における水泳プールの保健衛生管理」を広島県学校薬剤師会会長 豊見雅文先生、「基準に基づく教室等の環境検査の実施と指導助言」を愛知県学校薬剤師会会長 木全勝彦先生、「広範な学校環境検査活動で注目したい点検・検査項目について」を仙台市学校薬剤師会副会長 横田勝司先生が、それぞれ講演されるという豪華ラインナップ講師陣による講義でした。それぞれの先生方の講演内容は非常に参考になり、なぜこの検査を行うかなど意義に関しての確認や、よくある質問への回答なども例示して頂き、参加して良かったと思われた先生方も多かったのではないのでしょうか。この誌面では内容を書ききれないため、ぜひ先生方も次回学校環境衛生協議会が開催された際は参加をしてみてください。

準備など非常に苦労も多かったですが、このような研修会を千葉県学校薬剤師会が主催できたことは大変有意義なことでした。最後に遠路はるばるお越しいただいた先生方、そして県内各支部からお手伝いをして下さった先生方や、協賛・広告を頂いた企業の皆様にも心より感謝申し上げます。